

会議の名称	(番号) 1-17	令和4年度 第2回墨田区環境審議会		
開催日時	令和5年2月17日(金) 13:30~15:00			
開催場所	墨田区庁舎7階 庁議室			
出席者数	<p>【委員】赤尾健一(会長)、日置雅晴(副会長)、伊藤あすか、宇田川明、梅本禎司、江尻京子、小和田みどり、坂井ユカコ、須田真一、高森志文、中島宏幸、林家時蔵、はらつとむ、森林敦子、横井貴広(計15名)</p> <p>【事務局】鹿島田環境担当部長、三浦環境担当参事、高村すみだ清掃事務所長、環境保全課主査(星加、川瀬、後藤、鈴木)、すみだ清掃事務所係長(仲瀬)、すみだ清掃事務所主査(土屋) 担当係員(鶴岡)(以上10名)</p>			
会議の公開(傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二次すみだ環境の共創プラン 進捗状況評価(令和3年度実績)</li> <li>2. 令和5年度主な環境施策について</li> <li>3. 意見交換</li> </ol>			
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次第</li> <li>2. 第二次すみだ環境の共創プラン 令和3年度重点プロジェクト進捗状況評価概要版【資料1】</li> <li>3. 第二次すみだ環境の共創プラン 進捗状況評価(令和3年度実績)【資料2】</li> <li>4. 令和5年度の主な環境施策について【資料3】</li> <li>5. ゼロカーボンシティに向けた今後3年間の取組について【参考】</li> <li>6. ゼロカーボンシティに向けた今後3年間の取組についてロードマップ【参考】</li> </ol>			
会議概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部長挨拶 令和4年度第2回墨田区環境審議会の開催に当り鹿島田環境担当部長から挨拶があった。</li> <li>2. 新任委員の紹介 事務局から第九期新任委員である高森委員と横井委員の紹介を行った。</li> <li>3. 第二次すみだ環境の共創プラン進捗状況評価及び 令和5年度の主な環境施策について 事務局から、資料1「第二次すみだ環境の共創プラン 令和3年度重点プロジェクト進捗状況評価概要版」、資料2「第二次すみだ環境の共創プラン(令和3年度実績)」資料3「令和5年度主な環境施策について」の説明があった。</li> <li>4. 意見交換 (赤尾会長) 事務局から説明があった件について、何か意見や質問はあるか。 (小和田委員) 重点プロジェクト1ですが、最新年度の実績が2019年ということで、非常に算出に時間がかかって大変であると思うが、2020年度の結果はいつ出るのか。</li> </ol>			

(星加環境管理担当主査)

例年4月に特別区協議会オール東京62市区町村共同事業のみどり温暖化プロジェクトから送られており、データを反映している。

(須田委員)

2つ質問があり、資料1の重点プロジェクト3番についてである。グリーンカーテンについてだいたい設置が進んでおり、いいことだと思う。評価をみると緑のカーテンの特性が認められつつあると記載があるが具体的にはどのような評価や解析の結果なのか。グリーンカーテンを設置したことによって、壁面温度がどれくらい変化したか設置場所でどれくらい温度があるかなど、それらのことがきちんと検証されたうえで評価か、単に推測した結果なのかを聞きたい。

(後藤緑化推進担当主査)

壁面の温度は実際に測っていない。カーテンコンテストの参加者から「緑のカーテンを設置したことにより涼しくなった。」とご意見・お話を伺っており、その点を評価に反映した。

(須田委員)

非常にグリーンカーテンというのは、建築的な施策と比べると人の感情に訴える部分があり、景観的に良い。そこで景観的な、人の感情に訴える部分においては非常に良いことではある。ゼロカーボンというのは数字の問題であり、それに関わることは数値として客観的な評価をしなければいけないし、その両方というのが緑環境のゼロカーボンとしての施策に必要なと思う。継続的に計測し、大学生の研究レベルでできる簡単なものなので、取り組んでいただければと思う。他の自治体でもあまりやらないものであり、先に墨田区がデータの集積いただくことをぜひ取り組んでいただければと思う。

あと続けてもう1つ質問があるが、重点プロジェクト5の今後の計画の部分に、ボランティアの絶対数を増やしていくことが重要であり、「ボランティア数を増やす施策により一層取り組んでいく必要がある。」と記載がある。確かに絶対的な人数が増えないとうまくいかないと思う。割合や人数はそこまで変わっていないが、人数が増えていないことは何が原因なのかを今一度検証していかないといけないと思う。そのあたりは何か検討されているか。

(三浦環境担当参事)

なかなか人数が増えないのとメンバーが固定化されていることが事実としてある。その中で千葉大学との共同研究を3年かけて行っており、来年度最終年であり、緑化推進の中でどうやって増やしていけばいいかを一緒に先生や生徒と研究しているところである。来年総括の年になるので、ある程度具体的なことが出てくる予定である。

(林家委員)

重点プロジェクト3の中で、区民1人あたり1日あたりのごみの排出量は、中間目標値は1人あたり520g以下であるが、2021年度の実績が536g、資源化率が参考値として中間目標値が23.0%以上、前年度実績では19.3%、最新年度実績値が、2021年度で19.9%になっている。今までごみ減量の評価はCが多かったが、数字をみると進捗状況評価のBが非常に甘いのではないかと思います。今回Bにした理由を教えてほ

しい。

(高村すみだ清掃事務所長)

評価の記載にあるとおり今回新型コロナウイルス感染症で家庭に滞在する人が多くなり、ごみの排出が増えていく中で達成していなかったが、それに近い減量はしており、コロナという特異事項があった中での評価をBとしている。

(林家委員)

コロナがなければ、その評価はどうか。

(高村すみだ清掃事務所長)

コロナがなければ、実績値は下がっているところで、予定通り目標値どおりに進んでいったと思う。

(林家委員)

でも今までの評価はCが多かった。Bというのは、はじめてである。ほぼ順調に進行しているという理解でよいのか。

(高村すみだ清掃事務所長)

前回Cで今回Bであるがごみを減らす意識は向上しており、排出については指導しなければならぬが、適正な分別がされている点では意識が浸透している。今後廃プラスチックの分別事業についての話も出てきているので、それに向かって区民の皆様にご理解いただき、今までご理解いただいていたことからすれば、評価はBである。たしかにBとCとの境目が非常に難しいところがあるが、課題がないわけではないが、区民の方の協力を得ながらやってきたこともあるので、B評価にした。

(林家委員)

以前、目標値を達成しなかった理由として、区内に新規転入する新たな区民への適正分別排出への普及啓発が十分でなかったとあった。

(高村すみだ清掃事務所長)

啓発については、力をいれており、一部地域で新規のマンションが建った際に、排出の問題があるが、おおむね改善に向かっている。

(鹿島田環境担当部長)

補足をするとコロナ禍で家にいる時間が増えて、ごみが増えたことにプラスして、墨田区の人口が増えている。それを加味すると瞬間風速的にはなるが、増える時期にあったと令和3年度は言える。ただ今回従前と比べてごみが微増傾向にあるにも関わらず、方向性として来年度以降、今年度の議論として食品ロスで1日1人お茶碗1杯150gの食品を捨てていることをなんとかかする、資源化率の意味からしても廃プラスチック分別のモデル実施することを予定している。これから達成目標に困難が予想されるものがC評価としているが、ある程度プラスアルファの要因が出てきていることから、期待を込めていただき、ご理解いただければと思う。

(林家委員)

エコライフ講座について、私も以前面白い企画に参加したが、昨年はコロナで中止となっている。来年度の予定についてどの程度できるのか。

(川瀬環境管理担当主査)

昨年度は確かに多くの講座が中止となった。

(林家委員)

たしか去年は、1回だけ開催した？

(川瀬環境管理担当主査)

今年度については全部で7回実施しており、来年度も同程度で開催予定である。

(林家委員)

令和5年度は開催できそうか。

(川瀬環境管理担当主査)

この後コロナ感染症が爆発的に拡大しなければ、開催する。

(赤尾会長)

今のごみの減量化で私の記憶が間違っていなければ、ごみの減量化は過去すごく進んできたため、目標値自体がかなり厳しい値にセットされている。その関係で厳しいCという評価がついている。昔のごみ減量化はびしょびしょのタオルを絞っているような状況だったが、今は乾いたタオルを絞っているような状態である。ただ、中間改定計画でも目標値の値を緩めることはしていない。鹿島田部長からもあったとおり、食品ロス対策、廃プラスチックの分別、ごみの減量化を一層進めようという意識の現れと思う。以上、今回の評価は過去の経緯を踏まえた上でのBであると理解している。

なお、資源化率についても、値が変わっていない外的な要因があったように思うが、この点について教えていただきたい。

(高村すみだ清掃事務所長)

日本全体で資源化率が減少しており、なかなか資源化率が上がっていかない現状である。資源の主がプラスチックであることが挙げられる。プラスチックの分別が進んでいなかったことが原因である。今後プラスチックの資源化を進める中で、資源化率の上昇も進んでいく。

(鹿島田環境担当部長)

資源化という意味あいでは、行政がいくら旗を振ったとしても、なかなか進まない部分もある。ゼロカーボンやSDGsの目標が掲げられている中で、墨田区では事業者が取組を加速していく動きがある。いろいろな相談がくる中で、積み上げとして資源化率はここまで来ているので、値がぼんと上がることは考えにくいですが、事業者も2030年までにすべてプラスチックはリユースにしなければいけないという目標がある。事業者と行政が連携していくことが肝になると感じている。

(江尻委員)

重点プロジェクト4今後の計画について、事業者と連携していくとあるが、ここはどのようなことを指しているかを聞きたい。その後ろに廃プラスチックと食品ロスのことは書いているが、先ほどの説明の中に来年度計画実施すると言っていたが、その前半の部分(=事業者連携)は何をするのかを具体的にお話いただきたい。

先ほどの資源化の問題であるが、多くの自治体で言われているが、紙類が減っている、資源そのものが減っているという状況にあって、市町村の中には、資源化率を指標にしないところもでてきている。ペーパーレス化が進む中で、紙そのものが減っていると評価できることである。おそらく墨田区も同じ状況であると思う。

(高村すみだ清掃事務所長)

事業者と連携したリユース事業ということで、昨年から粗大ごみをそのまま区が収集するのではなく、「おいくら」という制度を行っている。下取り業者を紹介するシステムがあり、照会し買取してもらう。たんす等の家具、今まで粗大ごみとして出していたものを再利用し、売るというシステムである。いくらかお金になって引き取ってもらえる仕組みを導入し、広まっている。今後はごみとして捨てるのではなく、資源物として再利用し、民間の方の事業を紹介していく中で、リユース事業の評価に努めていきたいと考えている。

(宇田川委員)

区民会議では区民目線で環境の向上を目標にして活動している。重点プロジェクトの進捗状況評価を毎年拝見しているが、これは区民の通信簿だと思う。A評価が揃うのが良いが、なかなか難しいので、この結果を真摯に受け止める必要がある。区は普及・啓発に向けて一生懸命努力されていると思うが、27万人の区民を動かさなければ評価は上がらない。墨田区としては区民を動かすツールとして、環境の日・環境フェア・グリーンすみだを区民の情報発信に使用している。これらを有効に、積極的に利用し、区民への啓発を行うべきだ。区民自体も環境やSDGsと言われても自分は何をやったらいいのか、SDGsという言葉をよく耳にするが、わからない方が多い。そういう方に向けて、啓発することは非常に難しいと思うが、環境の日や、すみだ環境フェアや、現在環境保全課で作成しているグリーンすみだをどんどん普及し、区民に意識をもってもらうことが必要。区民会議の委員には、環境団体所属の委員もいるので、そちらで行っていただければ、委員を触媒に、環境意識の向上も図られると思う。

また区は2050年カーボンゼロを目指しており、エネルギー問題が一番大きい。区民会議では、東京電力に協力いただいて、先月もレクチャーいただく機会があった。ご苦労だと思うが、事業者方がそういった場で積極的に情報提供いただきたい。以前からも話に出ているが、いろんなものに取り組んだときの結果の見える化、たとえば東京電力から節電要請が出て積極的に節電した結果がどうなったのかを分かりやすく報告してほしい。区民会議の中において、そのようなことを話していただければ、多少なりとも区民に浸透するのではないかと思う。東京電力、東京ガスの負担になってしまうが、区民の環境意識向上のためにもぜひお願いしたい。ライオン、アサヒグループジャパンにもお願いしたい。

(伊藤委員)

ぜひ機会をいただきたい。そういう場を与えてもらえれば、説明にあがりたい。

(中島委員)

区に限定しての節電効果を示すことは難しいが、全体的なデータについては示すことができるので、こういう場でどういう効果があったかを説明することも良いかと思う。事務局の方からお話いただければ準備したい。

(須田委員)

墨田区の企業さんはすごく頑張られている。ところがその頑張りというのが、うまく発信できていない。うまく知られていない部分があるので、もっと積極的にアピールしたほうが良い。なのでこういう機会でもいいですし、区民の集まりで何か積極的

にアピールし、社会的に認知度が上がり、最終的には企業の価値や、親近感がアップすると思う。区としては、区内で積極的に活動されている企業への発表の場を与えても良いと思う。

(赤尾会長)

続いては「令和5年度主な環境施策について」何か意見がある人はいるか。

(はら委員)

資料3の1既存対象設備についてですが、直管型LED照明器具や断熱改修は非常にコスパが良いと思っている。

断熱改修はおそらくベランダの窓を二重窓にする工事のことであるが、あまり工事を行っている事例を見たことがなくて、例えば区役所で環境保全課でも工事を率先してやってほしい。ゆくゆくは公共の施設で行ってほしいし、区でこんなことやっているのと区民に知ってもらう機会になると思う。

(三浦環境担当参事)

区が率先して行っていることを見せれば、変わっていくことはあると思う。今後庁舎管理と総務課や公共施設のファシリティマネジメント担当と連携してやれることからやっていきたい。

(はら委員)

かつてやっていたと思うが、生ごみのたい肥化ということで生ごみを燃やすとガスやガソリンを使用するので、乾燥してから燃やしてくださいということになっているが、今はやっているのか。学校や食堂では大量の残渣がでるが、生ごみの処理の仕方について、改善の余地があると思うが、何か行っているか。

(高村すみだ清掃事務所所長)

生ごみについては、水分を切ってから出していただくと軽くなるし、燃やすときに燃えやすくなるということがある。生ごみのたい肥化については、生ごみ処理機のあるところがある。

(仲瀬啓発指導係長)

学校の給食関係であると、学校の食品残渣はすべて集めて、それを肥料化し、ごみにしない取組を行っている。

(はら委員)

知り合いの豚骨ラーメン屋が週に12袋の豚骨の骨が廃棄になる。捨てる则有料でお金をとられるので、それを肥料にしてくれる事業者とのマッチングはできないか。

(高村すみだ清掃事務所所長)

事業系のごみについては、事業者が自ら処理をすることが廃棄物処理法の原則になっているので、無料で引き取ることはできない。

(はら委員)

給食の残渣も無料で引き取ってくれますか。

(仲瀬啓発指導係長)

あくまで業者が有料で処理を行う。大田区の京浜島にある施設で肥料化やメタン化して電力として活用する取組がある。

(鹿島田環境担当部長)

給食の残渣は事業者に売っているか。

(仲瀬啓発指導係長)

売っているのではなくて、事業系ごみとして処理する中で、廃棄処分するのではなく、食品の再利用化の一環で、肥料化する。

(はら委員)

お金を払い、引き取ってもらい、肥料化するということが。

(仲瀬啓発指導係長)

処分場でそういった形でしてもらおう。

(鹿島田環境担当部長)

学校が事業者へ引き渡すに当ってどんなやりとりがあるか。

(仲瀬啓発指導係長)

基本的には収集運搬してもらって処理していただき、支払いしてもらおう

(鹿島田環境担当部長)

誰が誰に対して行うのか。

(仲瀬啓発指導係長)

区側が処分業者に対して支払う。

(鹿島田環境担当部長)

給食残渣を処理するに当って廃棄するのではなく、肥料という形をとって渡しているということか。

(仲瀬啓発指導係長)

事業者は再生食品化が一定規模の事業者で義務付けられているところがある。

(鹿島田環境担当部長)

学校もその立場になるのか。

(仲瀬啓発指導係長)

事業者にあたる。

(宇田川委員)

生ごみ乾燥機の設置状況はどれくらいか。乾燥して出てきたものはどういうサイクルで回すのか。乾燥して肥料として捨てるわけにはいけないので、サイクルの問題まで何か考えているのか。

(鹿島田環境担当部長)

生ごみを乾燥させる支援はやっているのか。

(仲瀬啓発指導係長)

生ごみ処理容器のあっせんを行っている。容器の中に生ごみとぼかしを入れて、たい肥化するものである。基本的には、清掃事務所から公募した事業者と直接区民の方が民・民の契約を行う形である。私共のあっせんを介することで低廉な価格で購入できる。最近希望する方は、家庭でのガーデニングのために購入する方が多い。そこでできた、たい肥をどこかで売るためのものではない。

(梅本委員)

資料3の直管型 LED 照明器具の交換を弊社で今月申請をし、工事をする予定です。大変助かる。資源高で大変な会社が多い。普及させるためには区の補助がないと、なかなかエコだけのためにコストをかけることが一般の方や事業者でも難しい。だからエコカーも助成金があるから普及していく訳で、助成金なかったら安い車をみなさん

買いたくなる。そのため区での助成金は大変ありがたい。団体が大きくなればなるほど、国や都の補助金の条件は厳しい。なかなか補助金の条件に合致しない町工場が多い中で、どこに目線を持って行っているのかと思うことがある。区は同じ目線で考えてくれるから、大変助かる。そこで1つ提案だが、助成金の周知に力を入れてほしい。同業者でも知っている人がいない、口頭で伝えてほしい。インターネットで調べればいいと思うが、例えばいろいろな団体があるのなら、区からこういう制度があると周知いただけると良い。実際区で回っている方もいる。なかなか網羅できないのが実情である。それから東京電力さんがいるので、文句ではないが、最近電気料金が高い。そこで、深夜料金があると思う。安くてエコになるため、深夜に熱源機をあたためている。事業系は深夜料金を契約したのに昼間高くなる。それもおかしいと思う。電気は作り置きできないと自分の中で知識はあるが、だから深夜料金があつて安く済むのではないかと思った。しかし、深夜料金を使うことにより、電気が高くなるのは話が違うのではないかと思う。

(中島委員)

発電所の発電源の問題であつて、原子力が今まで動いていたので、そこは不可変動させるよりも一定で発電した方が効率が良い。皆さん夜は電気を使わないので、深夜料金の契約が進んでいたのが昔の話である。今は原子力が全然動いてないので、そのため何らかの形で電気を作るが、夜は太陽が出ていないので、太陽光で電気を作ることができない。今は高いLNGで作らなければいけないので、かなり割高になってしまう。それであれば、季節によっては昼間の太陽光の電気は余るので、需要と供給の関係で余った電気の方を安く供給する。なので、原子力発電がどんどん動いていけば、昔の価格になると思う。

(三浦環境担当参事)

ご指摘のとおり、周知は一番大切なことである。今回新規の助成対象が2つ増えたが、車関係の助成金になるので、ディーラー等へ周知し、普及できればと思う。

(梅本委員)

確かにそれもいいが、もっと目線を下げて、例えば町会の方へ周知していただければ、一般の方も今度はEVにしようかなとか考えてもらえるので、目線を下げるような形で周知をお願いしたい。

(三浦参事)

あともう1つLEDの話で、梅本委員に活用していただいたのは、環境保全課の話と違って、経営支援課で行っている事業者向けのLEDの事業である。

(梅本委員)

大変すばらしいもので、5分の4補助がもらえる制度である。

これが国と都になるとせいぜい3分の1、もらえても半分それではなかなかわれわれも使用しない。こういった区の政策には感謝している。

(赤尾会長)

大きな事業体であれば、コンサルタントを雇って全体的なエネルギーのマネジメントができ、どこまで安くなるか助成金も含めて考えてもらえるが、小規模事業者ではできるところは限られる。効率的なエネルギーの使い方を見つけることは、カーボンニュートラルの観点からも非常に重要である。誰がどのようにその役割を担うのか



は、重要な課題だ。なかなか墨田区としてもそこまで手が回らないことはある。それこそ市場経済において小規模事業者のエネルギー・マネジメントをビジネスにする人が出てくれば、いいのだが。

(小和田委員)

資料3、4番目の廃プラスチックの分別収集・再資源化のモデル実施であるが、この小規模地域の候補はどのあたりか。

(高村すみだ清掃事務所長)

まだ明確には決めていないので、今後実施するに当たって詰めていきたい。

(江尻委員)

資料3、4番の廃プラスチックの分別収集・再資源化のモデル実施について質問がある。対象とするプラスチックはサーマル容器包装と製品プラスチックなのか。

(高村すみだ清掃事務所長)

そうである。プラスチックリサイクルに基づく施策があるので、容器包装にプラスして製品プラスチックを回収する。

(江尻委員)

容器包装プラスチックを回収している自治体が今度製品プラスチックを回収する話が各地域で出ているが、回収するときみなさん懸念しているのが、リチウムイオン電池と一緒に入り込まないかという問題がある。どのように啓発を行ったらいいのか。市町村によっては、行政は介入する必要はないが、リチウムイオン電池の回収を始めている。清掃工場の爆発や集積場での火事が度々起こっているので、そのあたりの啓発を考えていると思うが、先ほど啓発・伝えることが大事という話もあったので、ぜひリチウムイオン電池の出し方についてはやめに区民の皆さんにお知らせいただくことを実験の中で実施することが良いと思う。

(高村清掃事務所長)

リチウムイオン電池は非常に発火しやすいので、工場でも回収する際に発火する事故が起きているので、そういう意味では廃プラスチックの事業をやるからではなく、不燃ごみを出す際にきちんと分別してほしい。周知啓発活動を行っていきたい。

(赤尾会長)

リチウムイオンの混入の問題は、昔からあると思うが、ひどくなっているのか少し状況はよくなっているか。

(江尻委員)

何にでも入っており、とれるものであれば、お店で回収してもらえる。一番懸念されているのは、夏に持ち歩く扇風機があるが、それをワンシーズンで捨てる人が多い。特に若い人たちが捨ててしまう。これは製品プラスチックに当るので、回収する際に一番懸念しなければいけないところである。今年の夏も暑くなると思うので、扇風機を使う人が増え、廃棄がますます増えることが予想される。

(仲瀬啓発指導係長)

通常ごみを処理している清掃一部事務組合のなかで火災の件数がここ数年多発していると聞いている。リチウム電池が巻き込まれていることが原因で、現在その点については、23区全体で問題視されていて、このことについてどのように区民の方に周知するか、場合によっては別途回収方法を考えるかを検討中である。

(須田委員)

これは産業界のつくる問題も大きいと思うので、リサイクルに支障となるような製品を世に出すのは間違っている、例えばリチウムイオン電池の製品はとれるようにするなど、そういう社会的な動きがないと解決しない。墨田区・事業者から発信するのがよい。日本のシステムを変えるためには、ゼロカーボンやリチウムイオンの問題にしる根本的な障壁がある。やはりトップダウンではなく、ボトムアップで取組が出来ればよい。

(江尻委員)

須田委員が言ったように、業界が一致して、リチウム電池を使用した商品をつくらないことができたならベストだが、リチウムイオン電池が入っている商品は輸入品に非常に多い。海外にまで通用させることは難しい。この商品の輸入を止めることができるかどうかを含めて、今ある国民的な議論のあるところに、墨田区から発信するのも良い。

(赤尾委員)

拡大生産者責任と環境問題にかかわる輸入措置問題になると思う。

(須田委員)

2点ほどある。資料3の次年度の環境施策の中で、施策が6個ある。その中に生物多様性の施策がひとつもない。今年もCOP15があり、国の国家戦略が改正され、それを受けて都の地域戦略も改正され、ミレニアム年は生物多様性に関してなかなかない。団体は次年度に向けて頑張ろうとしているが、これをみると生物多様性にあたるような施策が墨田区にはない。

2番の千葉大学の連携事業については、緑化のを中心だと思うが、具体的な取組について行っているかは不勉強で存じ上げないが、例えば緑化だけではなく緑化した場所にどんな生き物が寄っているのかどんな生き物に対して効果的であるかを評価ができれば生物多様性との関係が見えてくる。その辺りが見えてこない。このタイミングを逃してしまうと、墨田区が生物多様性に後ろ向きであると捉われかねないことを危惧する。

また、資料2の荒川自然生態園の事業が廃止されていて、どのような計画があって、廃止されたのか経緯を知りたい。

(三浦環境担当参事)

最初に千葉大学との共同研究の中で、記載のある通り、緑化と雨水と環境学習をテーマに行っている。千葉大学の園芸学部と連携し、基本的に緑化、園芸が中心である。

昨年12月に区とすみだ水族館と協定を締結し、今後連携していくことになっている。そういったところで生物多様性を進めていきたい。

(須田委員)

主な環境施策の中に生物多様性の取組として入れたほうが良いと思う。すみだ水族館は水の生きものが主に扱っていると思うが、職員の方は他の生きもの全般が好きの方が多いと思う。他の生物分野も手伝ってくれると思うので、なのでそこを入口として、特に江戸文化と地域の自然の関わりについても取り組んでおり、そういう視点を取り入れながら、墨田区の生物多様性を進めていくとおもしろいと思う。

(後藤緑化推進担当主査)

	<p>国土交通省が荒川の沿川の自治体を巻き込みながら、環境整備や利活用を検討している組織があると聞いている。全体的な整備のなかで、自然園の整備の中で足立区・墨田区沿川の各自治体の中で整備を行わないことということになった。</p> <p>(赤尾会長)</p> <p>他に意見はあるか。意見がないので、意見交換について終わりたいと思う。議題としては以上である。事務局の方で何かあるか。</p> <p>(三浦参事)</p> <p>特にありません。</p> <p>(赤尾会長)</p> <p>皆様活発な意見をいただきありがとうございました。</p> <p>以上で審議会を終了します。</p>
<p>所 管 課</p>	<p>環境保全課環境管理担当（内線 5 4 7 2）</p>